



こども食堂 サミット 2021

～コロナのなかのこども食堂～

日時●2021年2月7日(日) 14時～17時30分(開場13時30分)

※16時30分～17時30分 交流会(参加自由)

会場●オンライン(Zoomを使用します)

主催●こども食堂ネットワーク

特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

協力●東京大学先端科学技術研究センター
人間支援工学分野中邑・近藤研究室

協賛●豊島区

プログラム

14時00分～15時00分

第1部 講演+質疑応答

「コロナのなかでのこども食堂の開き方」

藤岡雅司さん

(小児科医・ふじおか小児科院長・富田林医師会理事・日本外来小児科学会副会長・日本小児科医会理事など)



「NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ」の感染症対策コンテンツの制作に多大なご尽力をいただいた藤岡先生に、コロナのなかでこども食堂を開く際に注意することをお伺いします。相談した運営者の方たちからは、「目からウロコ」との感想もたくさんいただいています。また、参加するみなさんの質問にもたっぷりとお答えいただきます。

15時10分～16時25分

第2部 全国のこども食堂リレートーク

「コロナのなかのこども食堂」

全国のこども食堂運営者が、コロナ禍での活動について報告します。
また、こども食堂でのハラスメント対策について、急ぎょ問題提起をお願いしました。

園田愛美さん(森の玉里子ども食堂・鹿児島県)

山本啓一郎さん(なわて子ども食堂・大阪府)

対馬あさみさん(NPO法人 太陽の家・三重県)

南澤かおりさん(こどもの居場所作り@府中・東京都)

●コロナ禍のこども食堂が果たしたこと

湯浅誠さん(NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ)

●こども食堂のハラスメント対策について

門間尚子さん(せんだいこども食堂・宮城県)

●全体のまとめ

栗林知絵子さん(NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク)



こども食堂サミット2020の記念撮影

16時25分～16時30分

記念撮影・閉会

16時30分～17時30分

交流会

紙と太いマジックをご用意ください。

オンラインではありますが、できるだけ全国のみなさんが交流できるようにします。
サミットの感想、自分たちの活動などをご発言いただける「1分間トークタイム」を用意します！

参加者アンケートのお願い

みなさまのご意見、感想をぜひともお聞かせください。ウェブのアンケートフォームを用意しました。
お名前やこども食堂名(所属団体名)は無記名でも結構です。どうぞよろしくお願いいたします。

アンケートフォーム → <https://forms.gle/3Xiy2gemUJWGsvFD7>



コロナのなかの こども食堂



2020年2月末の一斉休校要請から約1年間、こども食堂にとっては激動の1年だったと思います。

そこでどんなことがあったのか、どんな工夫をして活動を継続したのかなど、

全国のこども食堂の「いま」を掲載します。

そしてもう1つ、「こども食堂での安心・安全のためにやっていること」も伺いました。

子ども、保護者、ボランティア、関係者が安心して過ごすために

どんな取り組みをしているのかを共有することで、こども食堂が子どもをはじめ、

関わる人全員にとって安心・安全な場所になれるといいですね。

※掲載順は、申込み順です。 ※敬称は省略させていただきました。 ※無断複写、転載などをご遠慮ください。

質問

1 コロナのなかのこども食堂

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、この1年間、みなさんがどう活動したのか、どういう点で工夫を重ねたのか、そしてそこで何を感じたのか。全国のこども食堂の仲間と共有したいこと、ぜひ伝えたいことをお書きください。

2 こども食堂での安心・安全のためにやっていること

20年12月、こども食堂で運営者による女性ボランティアに対する性暴力事件がありました。そこで、子ども、保護者、ボランティア、関係者が安心・安全に過ごせるために、あなたのこども食堂でやっていること、工夫していることを教えてください。

茶木谷与和 ひのくにスマイル食堂 熊本県

1 コロナの中でしたが、中止の決定は簡単にできるがそれは最終手段として、やれる方法を考えて活動を考えて中止の決断をするとの思いで今まで活動を継続してきました。本当に開催すること、いいことなのかは常に頭をよぎり、こんなに考えることで大変ならいっそのこと中止にしたほうが楽になれるのではないかととも正直考えたこともあります。しかし子ども達の笑顔を思い出すと、

やはり簡単に中止の判断はできませんでした。お弁当やパントリーなどいろいろ試し何とか完全に子ども食堂が無い月は今のところありません。本来に多くの方々に助けられました。こんな時だからこそ、コロナの影響で距離は離れないといけないう状態でしたが、心の距離は縮まったのではないかと思います。今後も実際の距離は離れなくてはいいのですが、心の距離は近く、温かい親心をもって活動を続けていきたいと思っています。

2 なるべく席は離す配置にしたり、時間差参加リモート学習、リモート相談会を導入するなど家にいても参加できるプログラムの実施。

大島登志子 みかづき子ども食堂 東京都

1 学校が休校の時は、子どもの昼食の確保のために食事パンと牛乳を配った。給食がない中で昼食を食べていない子ども達が心配だった。本来なら自治体が子ども家庭支援センターやSSWと連携して何らかな対策をして欲しい。

2 食材を袋詰めする時は、場所の換気と手指の消毒、マスク着用を徹底している。

七田直樹 駒岡丘の上こども食堂 神奈川県

1 3月3日より会場として使用しておりました横浜市駒岡地区センターが臨時休館に入り、5月末まで、約3か月休館となりました。直ぐに次の対応が出来なかった為、3月の2回のこども食堂はやむなく休止、施設自体の使用が認められていなかった為、4月2日のこども食堂は近隣の居酒屋

屋のキッチンをお借りして、唐揚げ弁当を作成し、参加者にお持ち帰り頂く様にしました。しかしながら居酒屋さんのキッチンは、まさに密状態で、お手伝い頂くボランティアさんの感染防止を考えると、居酒屋さんのキッチンを継続使用するのは問題と思われたので、4月の2回目より7月の2回目までの7回は、外部で作成されたお弁当を調達して、それ以外に多くの食材、飲料、お菓子その他を大量にご寄付頂きましたので、お弁当の配布に加えて、ミニパントリー的に食材その他をお渡しする方法で継続しました。お弁当の調達には、横浜をベースとされている崎陽軒様や飲食関連の会社を経営されているトリコロール様にご協力を頂きましたお陰で、バラエティに富んだ内容にする事ができました。8月より、やっと施設を使用している開店が認められるようになりましたが、やはりお手伝いして頂くボランティアさんの感染予防を一番に考えて、それまでは食育等の観点からも、メニューには拘っておりましたが、時短メニュー（カレー、丼物、その他）にデザートを手作りを止め、果物にと、変更しました。開店時にも受付での検温、手洗い、手指消毒等の徹底、これまでは自由な時間に参加して頂けたのですが、参加時間を2回に分割して、分散開店、もちろん会場内の消毒、ソーシャルディスタンスの確保、換気等には最新の注意を払って、開店しています。食事時には最新の注意を払って、開店しています。ペットボトルから接触のない、個別ボトルへと変更、経費がかさむようになりました。

2 *ボランティアさんの感染リスク軽減の為に、時短メニューの取り上げ、手作りデザートも休止し、果物を主としたデザートへの変更。

*受付での検温。

*受付時の手洗い。

*手指消毒の実施。

*会場設営の変更、スクールスタイルの配席にし、従来よりも離れて設置、一つのテーブルには原則、家族のみ着席可。

*会場の換気の徹底

*お茶・お水等、飲み物提供時に、大型ペットボトルの共用から、個別ペットボトルへの変更。

天野敬子 椎名町こども食堂 東京都

1 コロナのため会場を貸していただけないので、子ども食堂としての活動は休止しています。月に1回、お弁当と食材の配布を実施しています。短い時間でも顔を見て言葉を交わし、元気でいることを確認しています。

子ども食堂は三密です。三密の中にこそ良さがあります。子ども食堂が再開できる日を利用している方たちもスタッフも心待ちにしています。

大森大 MPO法人initata 東京都

1 子ども食堂からフードパントリーに切り替えました。交流の機会が減ってしまったことに悩んでおります。

2 フードパントリーに切り替え、アルコール消毒、スタッフのマスク着用は徹底しています。(来

場者はマスク持参しない方もいます。買えない可能性もあるので言及はしてません)

山田アキ菜 にこにこ食堂 東京都

1 コロナ禍の中、地域を超えて参加される人が増えました。人の繋がりに飢えている方もいます。以前は食事を提供していましたが、今はできなくなり食材配布のみです。続けていけるか不安です。寄付頂ける食材を増やしたいです。

2 屋外の活動です。
マスク、消毒だけです。

森美智子 Robeつくば学習会 茨城県

1 私達の団体では、開設当時から、通常は低所得世帯向けに学習会を開催し、その休憩時間を大目の30分を取ってその間に、地域のボランティアの方々が、交代でチームとなって月に12回開催している学習会&子ども食堂を運営しています。その中で4、5月は学習会自体お休みをしたのですが、3月後半から子ども食堂の中止をした時は、子供達の中に凄く残念がって、『家に帰ってもご飯ない…』と呟いた子が居ました。お腹空かせて、学習し、そして子ども食堂timeには何度もお代わりをする子でしたし、学習成績もどんどん伸びて、高校生になった今は、学年で一位を取れる程にもなった子なので、子ども食堂timeが無くなる事の落胆した様子は本当に可哀想でした。その後、4、5月は休まざるを得ませんでしたが、6月からの再開後は、それまで調理室で会食形式

で食べていたのを辞め、各教室や、廊下のソファで、ソーシャルディスタンスをしながら、食べる形式にして継続しました。その時間は子ども達にとってもお友達や講師との大事なコミュニケーションの場にもなっているのです、いかに継続していくかを考えつつ開催しています。今の所、感染者が学校では休校などが増えつつありますが、これだけ多くの子供達を預かっていても1人も出ていない事に感謝しつつ、感染対策に気をつけつつ運営しています。

高倉祐子 子ども食堂れん 茨城県

1 コロナ禍の影響で、お宅にお届けしての食堂開催が多かった1年。

なかなか集まることなく、子どもたちの顔が見れなかったのが、スタッフ一同「どうしてるかな・・」と心配がありました。

先日、クリスマスということで、久々に食堂でのイトインを行いました。

集まった子どもたちが「ここに来て本当に良かった」とキラキラした笑顔を見せてくれ、やっぱり顔と顔を合わせて食事を取るって大事なんだなと改めて実感しました。

2 体温測定や消毒をしっかり行っています。当たり前のことを徹底して行うことが、何よりの安心・安全につながるというモットーで活動した1年でした。

皆さんが工夫していること、あったら教えていたいただきたいです！

難波千香子 ホープあみ・子ども食堂 茨城県

1 令和2年度後半にテイクアウト方法でのスタートとなったが、栄養価を考えメニューは6品目は用意した。資金もゼロからのスタートのため地域からの提供とフードバンクからの食材の提供には、感謝でした。

2 消毒はまめに、マスク、手袋、体温のチェック等々

大村みさ子 子ども村・中高生ホッとステーション 東京都

1 ・コロナ感染予防のために学校が一斉休校になったり、グループ別の登校になったりしましたが、私たちの活動の目線はいつも「子どもにとって何が必要か」でした。そのため、給食もなくなった一斉休校の日々は活動日を増やしましたし、グループ別登校になり、給食がなかった日々には昼食を提供しました。

コロナ感染につきましては、安全、安心が最も必要ですが、活動場所と自宅の往復をする子ども達の行動範囲は安全で、それ以外の外部からの感染リスクのある行動範囲にいる方との接触以外は感染は考えられないと思いました。

・コロナ禍でメンタル面でも、経済的な面でも大人からの影響を受けている子ども達に何が必要なことかと考え、「コロナ禍で子どもと伴走する」気持ちが必要だと思っています。

2 むやみやたらにコロナ感染について不安に思

うのではなく、具体的な対策をして「しつかりと恐れる」ことをして欲しいと、「子どもの居場所」の中で標語を作りました。「3、4」については食事の前に再度言葉で伝え、全員で確認していました。沈黙となった食事時間には、子どもの選曲で音楽を流しました。

子どもの選曲での音楽をスタッフも聴くことにより、子どもの価値観も伝わったり、日頃耳にしない音楽を聴くことができました。

- 1、人とは心をつなぎ、きよりは離れて
- 2、人とは向き合わず、同じ方向を見て
- 3、食事はだまって、愛情感じながら
- 4、食べる、飲む時以外は、マスクをしてね
- 5、楽しい気持ちは、声でなく表情で
- 6、なにをするのにもまず、手洗いから

岩崎将博 お店のこども食堂 東京都

2 飲食店の衛生ガイドに則って対策をしてもらっています。

福正大輔 ホッとカフェ 神奈川県

1 パントリー形式でやっと12月再開することができました！ 地域の障がいを持った方、高齢者、ご近所さん、お店の方などたくさんのご協力を得ることができました。情報発進して良かった！ 地域はあったかい！ と感じていきます。つながり続けることを目標にやっていきたいです。また、食堂同士の連携も作りたいです。

2 部屋に集まらず、食材を配るのみで再開しま

した。消毒、マスク、手袋をしてもらいました。交流時間も5分ほどでさよならしています。

木立芳行 おだわら子ども食堂 宮城県

1 食材提供

前田りつ子 こども食堂まつぼっくり 静岡県

1 未来に向けてのコミュニケーションの場として始めたこども食堂は、食事だけでなく、折り紙や工作をしたり、読み聞かせ、豆まきなど季節の行事に合わせて、みんなでワイワイ楽しく開催しております。

しかし、公共の場所を借りてこども食堂を開催している私たちは、コロナの緊急事態宣言時は、休止するしかありませんでした。こういう時だからこそ、開催したいと思ったのですが、残念でなりませんでした。

6月からは、会場の使用人数の半分の人数で開催許可になりました。もちろん、調理室も半分の人数です。食事はバイキング形式から、一人ずつの盛り付けにして、煮沸消毒ができないガラスのコップは、紙コップに変更。環境に優しくという観点からは、つらい決断でした。参加者は、非接触体温測定やマスク、アルコール消毒を徹底し、食事テーブルの配置は、なるべく2メートル離し、対面にならないように配慮。何から何までアルコールで拭き掃除をするので時間がかかり、調理に支障が出て、開始時間が遅れてしまうことも。食事を渡す場所は、農業用の安価なビニールで仕切

りを行いました。換気のために窓を開けると、ビニールシートがヒラヒラして、食事の受け渡しがいづらかった。ボランテアは高齢者が多いため感染防止策としてマスクだけでなく、フェイスシールドも装着しました。お遊び広場は断念して、食べるだけのこども食堂になりましたが、楽しみに参加してくれる人たちのために継続してきました。

ここに来てコロナ感染がさらに広がりをみせており、1月からは、お弁当を配布する形のこども食堂にすることにしました。コミュニケーションの場にならないのですが、コロナが落ち着くまでの辛抱だと思い、当面この形で続けていく予定です。

我妻澄江 滝野川子ども食堂 (COCORO) 東京都

東京都

1 コロナで区立小中学校の休業中は「こんな時こそ、子ども食堂が必要」と、お弁当配布に切り替えました。月2回開催を「毎週」に増やし、予約制で50食。子ども達の顔を見て言葉を交わして、関係の継続に努めました。

配布場所で友達と会えることで、皆の笑顔が溢れていました。保護者同士も顔を合わせて、ホッとされていたようです。口コミで、新しい出会いもありました。「ここに子ども食堂があって、本当に良かった」と何度も言われたことで、私たちも励まされました。

学校休業中は、学習格差の広がりが心配だったの

で、学習支援事業も規模を縮小して、毎週、日中に行っていました。現在は、時間を短縮して通常通り、月に2回、行っています。区からコロナ関連で単年度の助成金も出たので、家庭や学校で困難を抱えた子ども達を対象に、夏休み(10日間)・冬休みも(8日間)の日中に、臨時の「子ども食堂・学習教室」(非公開)を開催しています。土日も個別対応を行っています。

2 過密を避けるために、定員を減らし、参加を「小学生以上の子ども限定」としています。消毒や換気にも気を付け、開所を2時間に短縮。スタッフは感染予防のため、食事をせずに帰ります。

佐々木智恵 あきしまこども食堂 東京都

1 会場の人数制限、時間制限、事前予約制、弁当配布、食材配布、手洗い消毒、マスク着用

只野公朋 ダイコンこども食堂 東京都

1 活動を休止しています。

緒方美穂子 あおとこども食堂 東京都

1 会食をやめ、無料のお弁当持ち帰り形式に変えました。フードパントリーも始めました。遊びコーナーは少人数予約制にしています。

全国の仲間と共有したい思いは、「こども食堂にできることは小さなことだけど、子どもの心を深」ところで支える活動だ」ということです。

保護者の方から子どもの言葉として、「将来、大人になり自分で働けるようになったら恩返しをし

たいと言っておりました。困っている家族に支援できる大人になりたいと。普段は内弁慶で恥ずかしがりで無愛想に見える子供達ですが、内心はスゴい感謝していて喜んでいます。」というメールをいただきました。

2 子どもとボランティア・スタッフとの間、スタッフ同士の間も、パーソナルゾーン（境界）を侵さないように、適度な距離を保つことは絶対に必要です。

あとおとも食堂ではSNSをはじめ、子どもとの連絡手段の交換は禁止しています。

スタッフ同士で批判し合ったり、指示命令関係が生じたりしないように注意しています。

こども食堂は子どもも大人もホッと息抜きできる「第3の居場所」。子どもの生活のすべてを支えようと意気込んだり、ボランティア・スタッフの私生活を犠牲にすることを求めたりしてはいけないと思っています。

鈴木晴菜 みどり町こどもひろば 山形県

1 子ども食堂の定員を縮小して、前半・後半に分けて開催することにより、参加者間の距離を確保しました。また、いろんな団体を参考にさせていただき、施設内の消毒作業も取り入れました。また、並行してプチ・フードパントリーを始めました。フードパントリーをすることによって、思った以上に困窮している世帯がいる事がわかり驚いたのが正直な気持ちです。私たちは、食糧支援しかできないため、県のひとり親相談員の方と連

携してひとり親が使える制度などを紹介していただいたりしました。

2 一番大事にしていることは、参加者・ボランティア・スタッフは対等な立場で話ができるように工夫すること。上下関係は、作らない。もちろん、「危ない。人を傷つける。」のような言動が目に入ったら注意しますが、相手の尊厳を傷つけないように配慮し伝えます。

小沼光歩 えどがわっ子食堂ネットワーク 東京都

1 えどがわっ子食堂ネットワークには区内の29か所の食堂が加入していますが、飲食店が実施している食堂、ボランティアが集まって実施している食堂、など運営形態も様々で、コロナ禍での運営も食堂によって、実施、休止など対応が分れました。集まって食べることはできないけれど、お弁当を配布しようという動きもありました。通常は年に数回会員の代表が集まり、打ち合わせ会議などをしていたのですが、それもできず、書面会議という形で開催しました。皆さんのコロナ禍での悩みや、普段の活動から思うことなどを共有できました。また、会員向けのホームページやメーリングリストなどを使い、普段から様々な情報を共有するようにしています。

2 普段から、さまざまな感染症対策や食中毒などに気をつけるために、保健所と連携して衛生指導をしていただいています。今回のコロナウイルスについても、早い段階で保健所と相談し、えど

がわっ子食堂ネットワークとして気をつけることを簡単にまとめたリーフレットを作成しました。また、つい先日、書面会議で「具体的な感染症対策を知りたい」との意見があったので、改めて保健所に気をつけたいことをまとめたお知らせを作成いただきました。

坂本久子 いわぬま・こども食堂プラス 宮城県

1 食堂開催のために借りている調理場が使用不可のために、3月からフードパントリーを9月からは公共施設の調理場の使用許可が下りたため、お弁当配布も併せて行っています。コロナのせいで経済的に厳しいひとり親家庭にしたので、予約制にして家族分のお弁当も配布した。密防止のため配布の時間帯を設け、利用者へのマスク着用・入室の消毒・チェックシートの記入（連絡先・当日の健康状態等）スタッフの感染防止にも注意を図り行っている。ちょっとした時間でも、対面でお話することも心がけて、日々の生活の厳しさ、月1ではあるが、パントリーでの支援のありがたさ、のことを伺えた。ほかのこども食堂さんの活動をはどのようににされてるかをお聞きしたいです。宜しくお願い致します。

2 コロナ感染防止対策として、毎回全ての関わる方々への注意喚起。3密防止・マスク着用・消毒（お弁当配布等の時は特に）体調管理の確認（スタッフも含めてチェックシートに記載）なるべく短時間で活動を終わらせる工夫（各自自宅で行えることはしてもらう例えばパントリー用の小分けな

ど)

代表もスタッフも女性ばかりなので、先日のニュースにもなったパワハラ的なことは一切ありません。運営者として和気あいあいに楽しく活動できるように心がけております。

岸田久恵 西東京わいわい子ども食堂 東京都

1 地域の公民館を会場にしているので、2020年3月から閉館となってわいわいキッチンを実施できなくなりました。休校となって給食がなくなり、子どもたちの食事が心配になり、3月末には子育て支援課や他の子ども食堂と、役所の入口でフードパントリーを実施しました。5月6月は、わいわいネット独自で場所を借りてフードパントリーを実施し、7月から、ようやく開館した公民館で子ども食堂を再開しました。いつもは子どもとクッキングをするのが私たちの食堂の良さなのですが、密になることや定員が抑えられているために、スタッフが作った食事を食べてもらおう子ども食堂の形で実施となりました。定員の関係で食べた後会場を出なければならぬ子どもが名残惜しそうにしている、早く前の形でできるようになってほしいと感じています。夏に、西東京市議会で、東京都の「コロナ禍の子どもの食の確保」助成金事業を行うことが決定したので、助成金を活用してフードパントリーを行う決意をしました。それからは、場所探しや申請書作成などで努力を重ね、田無駅南口すぐの閉店している元八百屋さんの店舗をお借りすることが

でき、10月からスタートしています。助成期間が2020年度ということで、3月までの期間限定ですが、水曜日の19時から20時、土曜日の15時から16時と、週2回開店しています。当番と買い出しはスタッフの負担となっていますが、顔見知りになって小さな子がなついてくれたり、兄弟や友だちと毎回通ってくれる子たちがいったり、たくさん保護者に感謝されたり、大学生や中学生がボランティアで手伝ってくれたり、お金や食品を寄付してくださる方が次々と訪れてくれたりと、励まされることがたくさんあり、コロナ禍でもつながりが広がった実感があります。12月末、フードパントリーの半分を終え、150組近くの登録、900人を超える来場者を得ました。3月まで、頑張ります！

2 体温計や消毒液はすぐ買いました。公民館でアクリル板を借りて、1テーブルの定員を4人にし、各席を区切っています。

日下景子 幸町こども食堂おいしいね 神奈川県

1 主にシングルマザー家庭へのテイクアウト弁当や食材配布に切り替えた。やっと11月12月近くの旅館さんから食堂に使わせてもらい念願の食堂再開できた。またコロナ禍で食堂ができなくなつた。どうしたら？

2 密にならないよう配慮。対象者をしぼるなど。

小野田悦子 みんなのごはん（兵庫こども食堂ネットワーク） 兵庫県

1 休校に伴い、こどもたちの『食べる』を繋ぐ、お弁当配布とフードパントリーを開催、継続しています。感染症対策の徹底
コロナ禍だから大切な『食べる』を繋ぐ 繋ぎたい これからも

全国のこども食堂の皆さまの奮闘に知恵や元気をたくさん頂き、本当に有り難いです。ありがとうございます。

運営者が心身共に元気であることで、どんな状況でも、必ず打開策がある。

ひとりでは難しくても、状況、情報を共有できる仲間と何かが動き出して（個々により内容は異なるが）未来へと繋がります。

皆さまと笑顔で会える日を楽しみに、コロナ禍の寒い日々を皆さまと一緒に乗り越えます。

どうぞ、くれぐれも体調管理に気を付けられてご自愛くださいませ

2 各自が意識して自分の心身の体調管理。みんなが元気であることが一番大切です。お弁当配布、フードパントリー開催時のちよつと一言の声かけが安心、安全に繋がり、たいしことでもなくても日々のささやかなことの積み重ねが自然体になっています。

旭和世 みそらこども食堂 兵庫県

1 感染の危険と隣り合わせの中での開催は毎回緊張と不安でいっぱいでしたが、大変だからこそしなければならぬという思いで開催してきました。

一堂に会する食堂がなかなか再開できず、パントリーとお持ち帰り弁当での開催ですが、コロナ禍では以前より倍近くの食数となり、食品の管理や、調理場所のキャパがギリギリとなっております。今年に入っても拡大は収まるどころか拡大の一途をたどっています。

今年はこれまで以上の支援が必要となるにちがいないと思います、支援の方法や、何が必要とされるのかといった当事者の声を聞ける機会があれば願っています。

必要な方へ支援が届く工夫を学んでいきたいと考えています。

2 持ち帰りという事もあり、消毒の徹底、マスク、三角巾の着用、調理の現場には特定のボランティアさんのみに参加いただき、不特定の方は配布へ回ってもらっています。

なるべく短時間で引き渡しを心がけていますが、濃厚接触はせずとも、やはり利用者さんとのコミュニケーションが大切という思いがあり、声かけは必ずさせてもらっています。日々感染が拡大していますので、これからも益々対策を強化すべきだと考えていますが、どのような事ができるか、勉強させていただきたいです。

武井恵美子 おおたラーメンこども食堂 東京都

1 コロナ発生からは安全第一に考え、子どもの居場所は閉鎖し、お弁当配布と個別の宅配へ切り替えました。緊急事態宣言が出てからは、1ヶ月間活動休止しながら連絡を取り合い個別で食事を

提供するなどして、繋がりを維持しながらコロナ禍を乗り越えるべく努めました。学校が平常に戻ると、定期的なフードパントリーを開催して地域交流を取り戻し、12月からは会食を実施する予定でした。現在は感染拡大を受け会食は延期し、フードパントリーや少人数でのイベント、個別支援（食材や学習、悩み相談）を継続。SNSやLINE公式に注力することで個々のご家庭の状況を分析、必要なものを必要とされる場所へ届けることで、誰もが大変な状況下にあっても、人の助け合いによって笑顔や幸せな時間を増やすことに繋がる活動を心掛け、実践しています。

2 誰でも安心して自由に利用出来るような居場所作りを目指しています。

悩みや迷いの中にいる人も、人の役に立ちたい奉仕の人も、様々な人が関わる場所に子どもの学びや、元子どもだった大人の学び直し、それぞれの成長があると思いますので、私達の子ども食堂では笑顔で心を開いて接し、どんな人でも受け入れることを大切にしています。

利用者さまからのご理解や共感、支援を得られる工夫として、子ども食堂での活動をSNS等で報告しています。

衛生面については保健所認可の食品衛生管理と、行政からの指導を遂行しています。

速水あけみ 子ども食堂「なかよしごはん」 愛知県

1 緊急事態宣言中と長期休暇中は、保健所との

相談の上で、子ども食堂でお弁当を作って配布するという事は断念し、購入したお弁当とご寄付頂いた食材を週三回配布。

子ども食堂開始に備え、玄関に手洗い場を設置7月から子ども食堂開催

時間を三部制にし、定員を45名から30名に変更
机の配置を対面式から一方向を向く配置に変更
スタッフの配置を見直し（おかわりコーナ係、手洗い指導、検温係）
食器をワンプレートに変更

子ども食堂での喫食が利用者のみなさんにとって、大切な時間になっていることをコロナのお陰で知る事ができた。

フードパントリーはフードパントリーで子ども食堂に食べに来る人以外の人との出会いの場になった。

食べに来なくても、子どもが小さいとか、家族に病人がいる等、様々な理由から難しい方もおられる。そういった方達にとってフードパントリーも大切な活動と知る事ができた。

子ども食堂の仲間との繋がりがこの一年の活動中、大きな支えになりました。有り難うございました。

2 手洗い徹底、空気清浄機、使用前・使用後の消毒、作業の簡素化

藤田のりえ わんはくと子ども食堂加古川 兵庫県

1 3月末からお弁当提供を続けています。密を

避けるために庭を整備して天気の良い日は庭で食べたりそこからシングルママと地域の人のための庭カフェが始まりました。子どもがマスクを外せないことには心が痛みます。大人の恐れや先生の言うことが即子どもたちに強い影響を与え、自分で考えるという体験が出来にくくなっていると思います。あとで様々な影響をもたらすのではないのでしょうか。

学校でも家庭でもない、子ども食堂はそういう点からも存在そのものが大切なのではないかと思えます。

2 基本的なアルコール消毒、アクリル仕切り板のテーブル、マスクシールド等の衛生用品の使用、通常考えてできることは全て行っていると思いますが、近くの病院で大量クラスターが発生して心配は尽きないので、できるだけ明るく楽し気な運営を心掛けています。

和田信一 よこすかなかながや 神奈川県

1 令和2年2月、安倍首相が全国の小中学校の休校を発表した時、給食が無くなって困る家庭が出ると思い、すぐお弁当の無償提供を決断、各フードバンクや企業、ボランティアさんに声をかけ、休校が始まって3日目からお弁当の無償提供を開始しました。

お弁当の無償提供数は2,579食。

その後は、夏休みや冬休みもお弁当の無償提供を行いました。

春休み明けや夏休み明けには学校の門の前や大型

商業施設前などにてチャイルドラインカードの配布も行いました。

子ども食堂としては、当初規模を縮小してなかなかやを必要としている小中学生5〜6人に絞り、朝食は学校がやっている毎日、夕食は火木土の開催。中学校は給食がないためお弁当を作って持たせていました。

コロナ対策としては、手洗い、手指消毒、検温、ノート記入、食事以外マスク着用、飛散防止シールド、空気清浄機、加湿器の使用、こまめな換気、密にならないよう壁を取り壊し一部屋を大きくするなどしています。

9月からは、隣町の中学校の先生にご飯が食べられない男の子を連れてきたこともあって朝食も夕食も平日毎日開催に変更しました。

また、令和3年1月非常事態宣言発出されたことにより更に規模を縮小し、かながやでないとご飯が食べられない中学生2人のみに朝食、お弁当を月々金、夕食を月々土に提供することに決まりました。

2 なかながやで行っていること。
子ども食堂保険に入っている。

子ども同士のトラブルについては、話をしっかりと聞き、子ども会議をひいたりボランティアさんと相談。

ひとりになれる小部屋を2部屋用意しました。

またボランティアさんと子どもとの直接の連絡、支援は禁止。

SNSなどの投稿の注意や配慮。

8月27日のボランティア会議では、年頃の男の子や男性ボランティアへの配慮として女性の服装について話し合いました。

具体的には、胸元のあきすぎたものや短めのスカート、肌の露出の多いもの、派手なものはひかえて、子ども支援に相応で動きやすい服装を着用してもらう事に決まりました。

稲橋ゆみ子 ひろば食堂ふらっと 東京都

1 室内での食事を避け、屋外でのうどんのみとし、焼き芋やマシュマロ焼き等子どもが楽しむ火遊びも行うなど、ソーシャルで楽しめる企画を実行した。が、屋外の設定準備、運搬、片付け等お手伝い（高齢の方が多い）が追いつかず、かつ、冬季対応もどうするのか、現在も思考中。フードバンクの協力によるパントリーは20世帯弱への対応（スクールソーシャルワーカーさん協力）にて新たな繋がりが見えたことはコロナ禍における対応としての成果。

不登校の子どもたちも声かけにより足を運んだり、高校進学断念の不登校生徒が1年間元教員、塾講師らの支援を週2回（2〜3時間／1回）受け、これからの受験に挑む状況。学校生活に馴染みにくい中学生が畑、自然の中で本人の意向に沿った放課後活動により、精神的な安定、成長が見受けられた。また、初の学校との連携ができ、教員が現場を学校時間に訪問し、代表との情報交換（連絡ノート）も行うことができた。

不登校児童も居場所としてのふらっとに來ると笑

ったり、自分の事を話したり、意欲的な姿を見ることが出来る。不登校のレッテルではなく、こういう場所でも学校間での連携、情報共有できる関係性を持ち、「出席」扱いできるようお願いしている。不登校児童、生徒の数は増加の実態に合わせた居場所の整備が必要であることが活動からみえてくる。

また、子育てに悩む親応援のあり方としても活動への参加協力を始めている。

2 ボランティアさんに「ボランティア保険」をかけている。

また、開催ごとに「イベント保険」を社協にお願いしてかけている。

酒井浩美 ゑんみようじこども食堂 東京都

1 3月からの自粛期間はパントリーで卵などを配布しました。自粛中も個別に境内に家族で遊びに来てくれて（テレワークのお父さんと）本堂裏の竹林で筍を掘ったりしました。持ち帰り家族で調理して食べてくれました。

池ではおたまじやくしをすくったり、カエルになるまで楽しんでいました。

普段は来れないお父さんと過ごす時間ができて嬉しそうです。

こども食堂中止でも繋がって行く大切さを知ることができました。

だんだんの近藤さんのご活動に心を動かされ、9月の5周年を機会に定番キーマカレーをお弁当配布で再開しています。今までは参加できる人だけ

しか食べられませんでした。が、持ち帰りしてお父さんと一緒に食べれる家族が多くなっている状況です。

今後もやれる限り継続する予定です。

いつもいつもありがとうございます。

2 スタッフが密にならないように注意して体調確認、検温、マスク&フェイスシールド併用手洗い消毒徹底して行っています。今後もさらに調理中パーテーションを導入する予定です。スタッフもお持ち帰り弁当です。

お休みは自由で無理のないようにとお伝えしています。

長谷川ふさ子 いっちゃん家わくわく子ども食堂 東京都

1 お弁当屋さんをやっているメンバーがいるので、そこに注文して、夏休みから毎日、お弁当を配布。9月からは週2回、夕ごはん弁当を配布。

基本、ひとり親家庭。1回あたり10〜15食。月に1回開催している子ども食堂でも、お弁当を配布しています。30食前後。あとは今年度、予算がついたので、毎月1度フードパントリーを開催しています。20〜25家庭。生活保護受給、児童扶養手当受給の家庭。

2 必ず、マスク着用と手指の消毒。検温。子ども食堂、フードパントリーの開催時には、時間を指定して、人数が多くならないように工夫しています。

堤雅 尾ノ上コミュニティ食堂「陽だまりの樹」 熊本県

1 コロナからの休校を受け、学校の給食のない日を開催日に行っている為、登校日に合わせて持ち帰りで対応してきました。

持ち帰りにしたことで、利用者は増え、家族の分も一緒に持ち帰れることで、一世帯当たりの利用数も増えています。

利用者を限定するか絞ってはどうかという意見もあるなか、共働きの母親の給食のない日のお昼ごはんのサポートという事で、誰でも利用できる。

こども食堂＝貧困ではないことをうたってきた。そのなかで、ひとり親家庭や、経済的に困窮している家庭が、気兼ねなく利用できる、いざという時手を差しのべられる場所でありたいと思っています。実際に、ひとり親家庭の方で、誰でも利用できるからこそ安心して利用出来るからありがたい。とおっしゃって下さる方もいらっします。フードパントリー等はひとり親家庭応援セット等をお渡ししたり、個別にサポートしたりと、厚めの支援は行っています。

今後とも、誰でも利用できる、困った時には抛り所になれるような場所でありたいと思っています。

2 関係者の検温や消毒や健康チェック

宇佐見義尚 ジジババ子ども食堂 群馬県

1 食材提供の在り方について、同じ内容ではな

く、世帯の事情に沿った内容を自ら選択できる食材バイキング方式で、きめの細かい食材提供ができるようになりました。また、地域の子ども食堂ネットワークを作る事で、使い勝手の良い子ども食堂、子ども食堂運営の合理化も進める事ができるようになりました。

2 子ども食堂開催チラシに、コロナ禍対応のメッセージ欄をつくり、また、子ども食堂が元気に開催している様子を伝える工夫をしています。「第2回子ども食堂フェスタin安中」を3月中旬予定し、メッセージチラシの作成と各子ども食堂の活動を動画に撮りYouTubeで全国発信して、コロナ禍に対する子ども食堂の役割などを考える機会にすべく準備をしています。

藤田潮 みんなの食堂 東京都

1 フードパントリー活動に軸足を動かした子ども食堂の活動は、「誰かの、子ども達のためになんとかしたい気持ち」をカタチにする機会、を創出したようです。自分自身も、誰かのためにでも何かしていないと不安や焦燥感のやり場がありませんでした。

私達には、振込による募金、食材寄付、差し入れ、場所提供、スタッフ参加、在宅事務補助、SNSの「いいね」による励まし。3月から絶え間なく受け取ってきました。

ゲストさん達も「自分も何か」ということで、年末の寒い日には私達スタッフにポットに入れた暖かい麦茶の差し入れも。小さな女の子からは折り

紙の感謝状もいただきました。帰省もままならない中、東京の私達のスタッフには都外、東北、関西の出身者もいて、ふるさとの言葉や地元の話題で盛り上がった日もありました。

世知辛いコロナ禍に、社会の「優しさ」「チカラ」のリアリティを感じられています。

2 フードパントリーに来るひとり親家庭さんの個人情報保護については、持ち物・服装を含む写真のそもそもの撮影をしないことや、氏名を整理番号にする、許可なくエピソードを話さない、などで細心の注意を払いました。これまでお聞きしたことのないデリケート事情を抱える方のお話からは、引き締まる思いでした。

「密閉」の回避のために受け渡しは駐車場をお借りして戸外で実施してきました。スタッフとしてお手伝いを希望してくださる方は多くいらつしやるのですが、「そこにいる人」密を形成する」は諸刃の剣なので、ミニマム人数で実施してきました。

また、スタッフ会議や慰労会はできなくて残念でしたが、LINEグループやZOOM会などオンラインを活用して情報は「密」にしてみました。

平林満江 子ども食堂はるたま 愛知県

1 3月の中止を始めとして4月から支援品配布、6月からは調理した弁当を低額にて販売してきました。学校再開を機に9月からは学習支援の部（ゆめたま）を再開し、そこでは子ども食堂として食事提供を無償で行っています。

子どもの居場所を提供するという目的の場は未だ再開できていない状況ですが、コロナとの付き合い方が明らかになってきた今この中で、どのようにすれば再開できるのか、思案中です。

兜山好直 世田谷こども食堂・上馬 東京都 2

公共の施設でのこども食堂ですが、月1回の食材配布時に室内に入れることはしないで玄関で渡すようにしている。

山本充枝 子どもの居場所トイトイ食堂 千葉県

1 前半は4月から3回、4・5・6月は休会、次の月2回、7・8月は参加者を常連者にのみ呼び掛けて開催、次の月4回9・12月は普通に開催、1月はお弁当の配布にしましたが、やはりコロナ感染のリスクを最大限に抑え活動続けることが、参加者及び主催者側に大切なことと感じました。

2 調理時はキャップ、手袋、マスクを着用する。参加者に検温、手洗い、ソーシャルディスタンス、主催者側は換気、注意を促す表示などを気をつけています。

清水紅 あつまれ前橋スポット 群馬県

1 公民館利用のこども食堂です。新型コロナウイルス感染防止のため、部屋や調理室が使えなくなり、館長と相談し、公民館駐車場でドライブスルーの「ランチと食材手渡しこども食堂」に切り替えました。コロナ禍、予約は倍以上、150食に増え、料理が作れないのでランチは購入し配布、その為、

毎回の運営費は今までにない金額となっています。通常のこども食堂が開催されないとカンパ、寄付もままならない状況、必死に助成金を探して何とかしてありますが綱渡りです。皆さんはどうされていますでしょうか。

2 保健所定期相談、実行委員全員食品衛生責任者取得、行事用保険加入、新型コロナウイルス、ノロウイルス、食中毒回避のため、ボランティア全員健康チェック、検温、手指消毒、手袋、マスク、フェイスシールド、屋外、ドライブスルー、若手起用 新型コロナウイルスが多く市中感染した場合、やもなく中止する予定

平野春望 大田区議会議員（はちみつ食堂ボランティア） 東京都

1 フードパントリーに切り替えてやっていた。感染が広がり、ここ2ヶ月は休止中。

2 笑顔で行う。子どもに話しかける。挨拶をする。様子を聞く。

安藤綾乃 つなぐ子ども食堂 愛知県

1 開催に対する中傷誹謗がいつおきるか、びくびくしていました。結果起きてはいませんが、沢山の子どもに声をかけることができず、本当に必要な家族に声が届きにくい状況であうと、感じています。

2 ボランティアの登録表を、紙媒体からQRを読み込んでネット記入してもらうことに変更しました。登録忘れが減り、ボランティアに対する個

人情報保護など、意識改革に役立ちました。

山本啓一郎 なわて子ども食堂 大阪府

1 4月から始めたフードパントリーは走りながら体制を整える、お金も、スタッフもないにくしのスタートでした。高齢者や、幼い子供と同居している人は、スタッフとして参加をお断りしました。少しでもリスクを避けたいがためです。シフトを組むのが綱渡りでした。資金も当初の10日間で20万円集まりました。やはり「何かできることはないか」と市民の方々は心の中で思っておられたのだと思います。「むすびえ基金」の助成採択されましたことは、大変うれしい出来事でした。おかげをもちまして予定通り6月末までに1100食を配り終えました。「お弁当」を渡す短い時間の中でのお母さんたちの就労条件のひどさや、先の見えない不安をお聞きするたびに「やってよかった」と思えます。

秋からクリスマスまでの間、4回のイベントをしました。この夏「思い出」を作れなかった子どもたちに、少しでも「楽しかった」と思えることを提供しようという思いからです。

①10月25日 えにし庵という野外の能舞台を持つ古民家を会場に「夜店のあるコンサート」を開催しました。当初のプランでは、「たこ焼き」などの食べ物を用意していましたが、古民家の管理者から「飲食の提供」を禁じられたので、昔遊び、とコンサートに変更実施。子どもと大人合わせて150人ほどが参加しました。

②10月31～11月1日「農業体験とキャンプ」滋賀県近江八幡市で実施

③11月28日「鰻とメロン食べ放題」（農水省の支援）拠点にしている「きずなわてホーム」にて開催しましたが、半数の人は集まりたくないとのこととお弁当にして帰っていただきました

④12月20日「クリスマスディナーを楽しもう」

フードパントリーご利用の方たち対象に「忍ヶ丘珈琲」の全面協力のもと開催。音楽ゲストに「寺田ちはる」（アコースト奏者）を迎え歌、ゲームと盛り上がりました

①はむすびえ基金、③は農林水産省、④は四條畷市福祉基金と農林水産省の助成事業として取り組みました

2 手指の消毒、非接触型体温計での体温チェック、5人以上集まる場合はフェースガードの着用

若菜順 おびひろ子ども食堂・風の子めむろ 北海道

1 私達は帯広市とその隣町芽室町で子ども食堂を運営しています。前者は無償ボランティアで運営している子ども食堂、後者は芽室町の委託を受けた子ども食堂です。コロナ禍のような状況になると自治体との連携の有無が実施の有無と直接結びつくのだと言うことを実感した1年でした。

芽室町は学校が休業せず給食がある限りは子ども食堂（風の子めむろ）も実施するとの方向性を示し実施しています。行政の支援があると何かにつけ安心です。一方おびひろ子ども食堂は万が一の

事態が発生した場合のリスクを考えるととても実施できる状況にはなりません。

それでもこれまでのつながりなどを失いたくない気持ちもあり毎月飲食店に弁当を依頼して子どもエール弁当の配布だけは続けてきたところでした。しかしそれも回を重ねるごとに私達のやりたかった子ども食堂からどんどん遠のいていくのを感じました。地域のかたから食材をいただき、ボランティアのみなんでわいわい楽しく調理して、子どもやお母さん方とわいわい楽しく食べてしゃべって…そうした心のつながりを実感できる場所が子ども食堂だったのです。それが全くゼロになってしまいました。来年度は新しい生活様式の新しい子ども食堂の形を模索し、大人も子どもも安心して楽しい居場所としての子ども食堂を作っていきたいと考えているところです。今回のこども食堂サミットでそのヒントをえられればと思っています。

村上牧夫 あったかキッチン水元 東京都

1 昨年は通常の子どもの食堂ができず、コンビニのおむすび弁当・お茶・お菓子・果物・他を配布しました。

7月8月の学校給食のない日・土日・祭日・夏休みと12月1月も同様にコンビニ弁当を希望者に配布しました。春休みも実施予定。

毎週土曜日にロボットプログラミング教室開催中。

2 コロナの感染予防に注意しています。

伊藤章代 豊山にじいろ食堂 愛知県

1 町からの規制で定例の場所が使用禁止になったことをきっかけに手作りの食事を提供する形からフードパントリーに変更しました。

急な変更になったため宣伝もFacebookのみでした。開催した結果、普段よりも3分の2ほどの利用人数でした。しかし、屋外で行うことで付近を通る人へのアピールとなりなり、場所も色々なところを選べる、各学校区でできるというメリットがありました。

しかし、フードパントリーは参加費無し、寄付金も集まらない、費用も定例より4倍かかるため資金面が大変でした。運良く、名東ロータリークラブさんと繋がり、たくさん情報が入るようになったため、物資、補助金を受けなんとかやれています。利用人数も実施するたびに増え、今では200食用意しています。現状で私たちが大切に行っていることは、その時の状況で何ができるのかを常に考える。回数が減ってもいいので続けていくこと。スタッフが無理をしないこと。関わる人が全員笑顔でいられるように。

2 第1に関わる人の体調管理です。スタッフは朝から検温、体調に症状はないか確認しています。あとはマスクはもちろん、消毒、手袋をし、物資

を渡す時は手と手が触れないように渡します。ソーシャルディスタンスを意識してもらっています。一度、会話のない会場として実施したのですが、子どもに何も言わずに物資を渡すことは難しく、自然に言葉が出てしまい無理でした。

今西利香 みとちゃん食堂・みとちゃんの朝ごはん 東京都

2 本当はみんなでお話ししながら食べて、遊んで、一緒に過ごしたいのですが、今は基本的な感染対策を行った上で、お弁当の持ち帰りして開催しています。

穴井智子 だんだん食堂（熊本嘉島） 熊本県

1 夏祭りもクリスマス会も実施しました。夏祭りは結果250人ほど、クリスマス会も100人が食堂を利用しています。

私も利用者も正直なところ 不安から開放されたのはやはり2週間後…こどもたちや利用する方々の心からの笑顔と、ありがとう楽しかった！の言葉に、万一を覚悟しましたが、実施して良かった！と喜びと安堵。

こどもは結構密になっていたのは仕方ないかと覚悟していました。やらない勇氣よりやる勇氣を選択。どれが正解は無いので 全国の食堂主宰者も考えは様々ですね。いつも通り、他者を認め合えれば最幸です！！

2 体温チェック、手洗い、消毒、換気、マスク着用、通常皆さんが気をつけることのみ。

忠平守 子ども食堂猫（ねこ） 愛知県

1 狭い会場なので、開催は自粛しています。代わりにフードパントリーを実施しています。

2 狭い会場で、どうやって再開しようか、再開できるのか、スタッフ一同が頭を悩ませています。

李永俊 弘前大学ボランティアセンター 青森県

1 臨時休校時に無料お弁当の配布、リモート学習支援、見守り訪問事業などを支援している。

2 手指消毒、検温、マスク着用の徹底、ボランティアの人数を最小限に、リモート学習支援など。

大橋美紀 上高田みんなの食堂 東京都

1 弁当配布とフードパントリー。

2 換気、消毒、検温、三密を避けてゴム手袋必須の調理。

川守田栄美子 インクルこども食堂 岩手県

1 8月～10月は屋外での企画でお弁当の持ち帰りをした。11月からは参加者を通常の半分にし会食はなしでお弁当持ち帰り。それでも子どもと一緒にの楽しい企画が少ないなかに開催してくれて嬉しいとの感想をいただいている。

2 健康チェック、ミーティング。

佐々木かおる こども食堂POP 東京都

1 2020年9月から開催しました。本業であ

るキッチンカーで区の公園や広い私有地などをお借りし会委員さんに呼びかけをおねがいしFB・Instagram等でも呼びかけ御蔭様でコロナ渦の中でもたくさんの子供達や親御さんたちにお越しいただけました。

12月には心臓移植をして1か月前まで入院してた可愛いお子さんもお兄ちゃんやママと見え笑顔を見せてくれました。コロナ渦でも安心で安全にこども食堂が開催でき子供たちの笑顔が見れることに感謝です。

2 お弁当配布は野外なので蜜を避けられ、消毒も配布ごとに行っています。キッチンカーの中と外、会員さん達が色々配布して頂いてるテーブルには消毒液を置きビニール手袋をもらい安心して持ち帰りできるようにしています。

又、フードバンクを配ったり、ボランティアの方に玩具を配って頂き凄く喜んで頂きました。うちの会員さん達は有難いことにコミュニティが素晴らしく、専属カメラマン等、SNSには他のこども食堂に無い開催風景などもアップしてあります。

コロナ渦だからこそキッチンカーでの開催は安全で安心できることを知って頂けることができてます。

鯉淵百合子 寺崎食堂 千葉県

1 2020年2月に立ち上げました。緊急事態宣言という耳慣れないことが聞こえてきて、集まって食べることは断念。

児童や保育園、学校の協力を得て、休校中に100円弁当の提供からはじめました。

ひとり親さんや、医療職のママなど、この地域でもさまざまな課題があることが少しずつ見えてきました。

暮れに、LINE公式アカウントでお米の配布を呼びかけると、何人かの手が上がり、支援に動いたことで、調理担当から手づくりおせちのおすそ分けの提案が。大晦日の夕方、手分けして数世帯に届けました。

スタッフどうしの絆が深まったのも、とくにこういうときだからなのかもしれません。

動くから見ることがある。

リスクはゼロにはならないですが、細心の注意を払いながら、活動が続けたいと思います。

2 チラシに感染防止への協力をお願い、お弁当配布やパントリーは屋外（小学校昇降口の軒下）で開催。

佐藤由加里 菜の花ダイニング 神奈川県

1 1. コロナ禍になって、市民館が使用できなくなり、一定期間は活動休止になりました。再開するときに、「この対策をすれば安心」という指針もなく、ましてやアルコール消毒剤がなくなるという事態になり、それでも居場所としてのこども食堂を再開したいという思いから、スタッフと考える限りの対策をし、開催してきました

2. 個人情報保護の事もあり、本当に困っている人へのリーチが難しく、いまだに大きな課題とし

てとらえています。

3. 感染対策のため、「食後はみんなでお話しタイム」を和室で好きなだけいていいよ というリラックスした、時間をとる事ができず、悩んでいます。

2 ・完全予約の入れ替え制

・ビニールコーティングしているテーブルクロスを使用

・入れ替え事に消毒用アルコールで消毒

・お弁当容器を使用しての会食スタイル

・飛沫防止用の紙製ランチョンマット導入

・非接触体温計による参加者ボランティアの検温等

村上典子 要町あさやけ子ども食堂 東京都

1 3月から子ども食堂を閉め、4月末からはフードパントリーを子ども食堂と同じ第1、第3水曜日に40世帯を目的地に用意しています。毎回、5合のお米を配布し喜ばれています。1ヶ月で約1俵のお米が必要ですが、送ってくださる方も続いています、感謝しています。12月には、クリスマス行事として、サンタクロースの衣装で、パウンドケーキを一本ずつ配り楽しんでもらいました。

2 パントリーでも密にならないように注意し、間隔をとって並んでもらっています。

林比典子 ひがしふちゅう駅前こども食堂 東京都

1 3月以降中止していましたが、7月と11月に再開しましたが、参加者が少なかったため、12月からはまた休止しました。

4月からは、コロナで困窮したひとり親さん支援の為に、フードパントリーを毎月一回行っています。

そこで分かったのは、パントリー参加者は、必ずしも子ども食堂利用していないことで、周知の方法や、開催方法に工夫が必要と感じました。

2 蜜を避ける為、2回入れ替え制。消毒剤、マスク、フェイスシールドの使用、テーブル上にパーテーション使用。ボランティアさんの人数制限。

内藤幸子 ひまわりキッチン 愛知県

1 コロナ禍の中ずーと開催してきました、なぜかという、私達は毎月チラシを町内に回覧させて頂いている。中止の連絡が取れない為開催場所を待機していたら時間になると子供が1人、2人やって来た為、おにぎりを作って、味噌汁でお昼を済ませた、こんな時期でも必要としている子供たちがいることがわかりそれからは開催しています。

2 4月から6月までは外での開催となりました、長テーブル三人掛けの所を二人かけ、同じ方向を向いての学習、3分おきの手洗い、消毒、マスク着用、いつもは勉強が終わると食事、遊びに移るのですが食事が終わると解散としました。

丸茂ひろみ まんまる食事会 群馬県

1 集う時には来れなかった方が、お弁当テイクアウトになったら来てくれるという新たな出会いもあり、家族丸ごとのお弁当数になるので食数も増えました。

2 衛生面はもちろんですが、外で配布して、外でかき氷を食べながら読み聞かせをして少しでも楽しいムードづくりを意識しました。

友永千恵子 そのつこたやけ食堂 兵庫県

1 緊急事態宣言下では食堂の活動を休止しましたが、学校も臨時休校が続く中、SSWさんの要請を受けて、欠食の恐れがある児童に対し毎日お弁当を配布しました。イレギュラーな形で、一部の子どもたちの力になった事は大変有意義だったと思います。

一方で、昨年7月から食堂を再開していましたが、以前参加していたのに食堂に戻ってこない子どもたちが多くいました。家庭事情に不安がある中、コロナ禍以降の様子子が不明なまま関係が途絶えてしまった子どももいます。

2 度目の緊急事態宣言も、再度休止することになりましたが、リスクを軽減した形で子どもたちとの関係を途切れさせない工夫をしていきたいと思っています。

西上紀江子 地域食堂「楽」 山形県

1 5月の連休に仲間と作った遮蔽板を使用した

り、食事を二部制にするなど密にならないよう工夫して、11月まで食堂を開きました。12月からは、市内で感染者が増えたため食材配布に切り替えました。1月は、スタッフが搗いたお餅を配ったり、いつも支援して下さる事業所さんに頂いた鮭フレークでおにぎりを作りました。利用者の声を受けて、今後は、食材だけでなくお弁当も一緒にお渡ししようと考えています。

2 先にも書きましたが、5月の連休に仲間と遮蔽板を作り、自分たちが使うだけでなく県内外の施設や居場所作りをしている団体に寄付をしました。また、密を避けるため、食事を二部制にしました。

対馬あさみ NPO法人太陽の家 三重県

1 子どもが自分の意思で来れる場所を小さくても開くことを大事にしました。コロナ禍では居場所の開催が難しく、パントリーの開催数を増やして月2回実施していますが、パントリーは親を通じて支援となるため親次第で支援と繋がれない子どももいるため、子どもと直接繋がれる場所が必要。約200家庭にアンケートを取り、子どもたちの声や必要としていることを直接聞き、コロナ対策をしながら下記のような取り組みを行いました。

【子ども食堂】コロナ前までは親子参加OKでしたが、コロナ中は会場は広いまま、子どものみの参加に限定して人数を抑制しソーシャルディスタンスも取れるように開催。

【学校との連携】学校と連携して、学校内で無料

で飲み物や軽食を提供する構内カフェを毎月開催。

【学習サポート】緊急事態宣言下での休校期間中にはオンラインを利用した学習が推進されましたが、オンライン環境が整っていない家庭や塾に通っていない子どもは不安の中で置き去りにされています。特に受験生は大きな不安を抱えていることが分かったため、受験生に限定して進学相談もできる学習サポートを実施しました。

【フードパントリー】月2回実施。食以外の支援も同時にできるように、市の相談員やハローワーク職員等が会場で個別相談を受け付けました。また、選択できることを大事にして、日にち、時間帯、会場受け渡しコロナに不安のある方は宅急便か、を自身で選んでもらえるようにしました。30分刻みで予約を取り、時間帯ごとに集中しすぎないように調整してコロナ対応。

【他団体との連携】三重県内の子ども食堂、学習支援団体、子ども支援団体、学童、保育所、等、子どもと直接関わっている団体さん約40団体と共同で各地で食品配布を実施することで、様々な地域でより多くの子どもたちと繋がりを届けることができました。

【行政との連携】市と共同でお弁当配布や個別家庭への宅食、パントリーに市の相談員さんやハローワーク職員さんに出張してもらい会場で個別相談受付、要対協への加盟と虐待児童の見守り、等。

2 【プライバシーへの配慮】参加者とボランテ

ィアさんのSNS等への参加者の写り込んだ写真投稿の禁止、記録用の写真撮影は決められたボランティアで実施。

【ボランティア参加のルール】ボランティア参加の1回目は見学のみとしています。そこで合う合わないをお互いに確認したり、どのような関わり方が良いか確認をした上で、次回以降にボランティア参加をお願いしています。また、初回参加時に身分証の提示もお願いしています。

【連絡先交換等のルール】ボランティアと参加者との連絡先交換の禁止、未成年・学生ボランティアとの連絡先交換の禁止、等

児玉頼幸 小郡中学校朝ごはん 山口県

1 再開後は毎回、調理ボランティアが喜んでメニューを考えたりして、生徒とのつながりが強まったように思われる。

2 手指の消毒、換気、ソーシャルディスタンスに十分、配慮するとともに、利用者の連絡先を記入してもらうなど、万全をつくす。

園田愛美 森の玉里子ども食堂 鹿児島県

1 フードパントリー中心の活動になり、「集まる」「ふれあう」ことが大変難しくなった中、なんとかつながりを保ち続けたいと工夫をしてきました。その中で、行った「手編みプロジェクト」を紹介します。

あるボランティアが、「もう、編む人がいないんだけど、誰が使わないかな」と、毛糸玉約60個

を持ってきました。

その時、編み物をする祖母の姿を思い出しました。「誰か、この毛糸で、子供たちのために、暖かいマフラーや帽子を編んでくれたら。子供がそのぬくもりとともに、編んでくれた人の真心を受け取ってつながりを感じることができるかもしれない。」そう思って、SNSで協力を呼び掛けることをひらめきました。祖母は認知症だったけど上手に、一日中、毛糸の帽子を編んでいました。コロナで外出ができなくても、家の中で、誰かの為を思って編んでくれる人がいたなら、それを受け取った子供が、喜んでくれるはずと思いました。早速フェイスブックに「すてきな毛糸をたくさんいただきました。編み物大好きなのですが1人では編み切れません」と投稿しました。多くの方が情報の拡散に協力してくれました。

すると、会ったこともない、東京、千葉、京都、奄美など、全国から連絡をいただきました。その方々に毛糸5〜10玉ずつお送りし、年末年始を挟んで、10人の方が編んでくださいました。数週間後、マフラー24本、毛糸の帽子20個、ヘアゴムやたわし、巾着など、いろいろな毛糸のグッズが送られてきました。とても驚きました。自分は編み物をしたことがあるので、どれぐらい時間がかかるか、皆さんが「両親の介護の間にあみます」「小さな子供を育てているのですが、家でできることなので編みます」と言って受け入れてくださったことを知っていたので、大切な時間を割いて、たくさんのお愛情を子供たちのために込めて編んで

くださったことが伝わりました。

出来上がったものは、フードパントリーの時に、お母さん、お父さん、ついてきた子供たちに手に取ってもらい、希望するものをそれぞれにお分けします。(1月16日の予定) 子供たちやそのご家族の皆さんが、手編みの温もりを感じ、離れていても、思っていることを実感として感じてもらえれば嬉しいなと思っています。

反響が大きく、「自分の家にも毛糸が眠っている」と言うご連絡も頂戴し、通年のプロジェクトとして続けて行けたら良いと思っています。編む方も、いただく方も、つながりや温もりを感じる取り組みになると思っています。

こども食堂が、子どもたちとそれを応援する人々をつなぐ場所でも有り続ける。それは、工夫していけば、コロナ禍でも、いろいろな方法があるのだと皆さんに教えていただきました。

平郁代 みらい子ども食堂 鹿児島県

1 3月〜10月は中止。11月以降は支援者との話し合いのうえ、お弁当持ち帰りスタイルで再開した。

2 コロナ禍では、密をつくらないように徹底している。

安西卷子 まきまきキッチン 神奈川県

1 食事はせずに、パントリーにしました。

高橋亮 こがねはら子ども食堂 千葉県

1 休校期間中は週一回を週3回に増やして開催しました。その為マスコミの取材が殺到しましたが「開催するのも休止するのも実践者の悩みは同じ。それを理解して欲しい」と訴えました。

その後も地域の子ども食堂ネットワークで立ち上げたフードバンクで集めた食品を各食堂を通して支援しています。

2 消毒、検温(記録)、換気。

永井万美 みなみすなこども食堂/たつみこども食堂 東京都

1 昨年、緊急事態宣言出される前にコロナ感染が増え始めた頃に子どもたちに向けてわかりやすく説明をした新聞を出しました。感染や飛沫、ウイルスって何かということからマスク着用や手洗いうがい、咳やくしゃみをする際に注意することなどをこどもでもわかる書き方で絵を用いて説明しました。

一斉休校の後は給食が無くなり自宅待機となった子どもたちの食事の確保や安全確認のため子どもだけでも食べられるランチン食材を配りながらこども食堂実践者の会の有志と都知事に子どもの食や安全確保のために給食の継続や配慮を求める要望書を提出。同じような内容を区長宛にも区内のこども食堂有志と提出しました。一斉休校となるかもと言われていた週末には実践者の会のメンバーと私たちに何ができるかとすぐに動き出し、それぞれが調達できる食材を共有しあったり、要望書を準備したりとスピーディに動けたため一斉休

校直後から活動ができたのは日頃からのこども食堂仲間とのつながりの賜物でした。

緊急事態宣言が出るなか仕事が無くなったり休職を余儀なくされたひとり親世帯も増え食材配布を開始しましたが地域を超えての依頼も増えてきたところ区内の他こども食堂さんも一緒にフードパントリーとして地域を超えて食材配布を始めています。高齢のボランティアさんを守るため、又は施設利用ができずやむなく休止していたこども食堂さんもフードパントリーに参加することで地域の家庭とつながることができるよう良ききっかけとなったと思います。

ずっと自宅待機となっていた子どもの中には自宅が辛い子どもも多くおり、7月から年末まで人数を少なくしてパーティションなどを設置して子ども食堂を再開していました。が新年からの緊急事態宣言再発令でお弁当配布に切り替えています。

2 こども食堂に来る子どもたちを守るだけでなく、ボランティアさんをはじめ私たちが感染しない、ことも大切に考え、年齢を問わず日頃から来てくださったボランティアさんには参加を控えてもらい最低人数（多くは1人で動くことも）で活動しています。基本的な考え方として運営している私たちがもしかしたら無症状感染者かもしれないと考えながら人との距離や調理時の衛生面での配慮を通常以上に行い、こども食堂以外での日常生活でも人との接触は避けて過ごしています。こども食堂再開した時は私たちはもちろんのこと

手指消毒はもちろん事前の検温や食事以外のマスク着用を徹底してこども食堂でも換気やパーティションで仕切りながらも1テーブル1兄弟姉妹を基本としています。こどもたちがパーティション越しに遊べるゲームなどは残しつつ、子どもたち帰宅後は遊んだ玩具ははじめ消毒も徹底しています。

原千弘 地域食堂うみさち・やまさち 宮崎県

1 地域の交流センターで開催しています。休館になると使えず開催出来ない月もありました。そんな月が続き、新しい生活様式が掲げられ、今までと同じ様に出来ない事、コロナ禍でも集まってくれるのか（参加者もボランティアも）、クラスターになったらどうしよう、沢山の不安がありました。しかし、子供食堂運営マニュアルを作った頂き、対策を皆で考え、再開（再会）する事ができました。

子供達の笑顔、地域の人達との会話、会ってコミュニケーションをとり、協力し、喜びを分かち合う。子供にとっても地域にとっても、大切なひと時だと感じました。

2 子供食堂運営マニュアルに沿った運営。

中村香代子 ぬまぶくろワイワイ食堂 東京都

1 昨年2月に子供食堂を開き、その後、会場が使えなくなりました。ボランティアが、寄付を申し出た企業様があり、こうしては居られないと、フードパントリーを、月1でやる事にしました。

お弁当配布も、近所のお弁当屋さんで配布をしております。

品物を集めるのは大変ですが、50家庭に毎月お届けしています。

2 配布会場も、時間分けて、ボランティアも、手分けして集まらないでできる方法で乗り越えています。

中村千加子 心の子どもごはん 愛知県

1 できる範囲内での開催、難しいときはお弁当（回数を増やす）フードパントリーなどをしてきました。ボランティアさんの協力が大きかったです。参加の皆さんは少しでも開催されることを願っておられるのでできるだけ気持ちに添いたいと思います。

2 時間指定して蜜を避けて席の配慮。椅子や机などは光触媒を使つての抗菌をしました。マスクを外して参加者は食事をされるのでボランティアさんには除菌ブロッカーをお渡ししボランティアさんを守る配慮。食事をしたらおしゃべりをするときはマスクを、残念ですが早めの退室をお願いします。

小嶋隆正 西尾子ども食堂 愛知県

1 一昨年11月に組織を立ち上げ、昨年3月から月1回開催する予定でしたが、コロナの感染が始まった時期と重なり、活動を見合わせました。10月、11月によりやく開催することができましたが、12月以降は、コロナの第3波に見舞われ、食

糧を持ち帰ってもらっています。そんな、ささやかな活動しかできていませんが、多くの人に関心を持っていただき、予想を上回る支援を、個人・団体・企業からいただいています。年末には、他の団体と連携して、緊急のフードパントリーを開催し、フードバンクの検討も始まっています。コロナ禍の中でも、多くの支援をいただき、支援を必要としている人も多くいることが確認できました。

2 保健所のご指導やむすびえの食品衛生関係の資料を参考にしています。

山崎千秋 ひまわり食堂 宮崎県

1 開催を決めて動いている間に、感染が拡大し、実施するか、または中止にするか苦渋の判断を迫られる。食堂が中止したときに、ほかにどんなことができるのか考える。

2 名前、住所、体温などを記入する受付票や検温を入館前に受け付けていること。長テーブルの間にビニールで仕切りをつけている。極力、台拭きやお皿拭きなど使い捨てのキッチンペーパーを使用。ビニール手袋を頻繁にかえる、など。

高信美保 みよし多世代・子ども食堂うきぐも食堂 愛知県

1 2020年3月～5月は活動拠点にしている公共施設が閉館してしまい食堂は中止していました。6月からはお弁当の配布に切り替え、料金設定を下げ、SNSの告知をやめて本当に必要な方

の手に渡るように工夫をしました。今年度は1回あたりの利用者数の平均が88名と昨年度よりも増加しています。足が弱くて食堂に来られなかった独居の高齢者が、友人の分のお弁当を預かり届けるなどご近所同士の助け合いが自然に始まりました。その様子を見て新型コロナは悪いばかりでないと感じています。

2 スタッフの体調管理、手指の消毒の徹底、調理器具の殺菌消毒、定期的な検便の実施、保険加入

もり愛 おとな&こども・ほっとネットキッチン 東京都

1 子ども食堂から感染者を出さない為に、運営するかどうか、持ち帰りのみにするか、世話人での議論を重ねた結果、コロナ禍で、子育て家庭の孤立が心配だからこそ運営しよう！ と思うから、より広い会場（公的な調理室）へお引越して、会場の人数を半分にして、密にならない様に開催しました。

経済的な貧困のみならず、繋がり希薄化、自粛中で家庭で息が詰まる事の無い様に、広い和室を別に用意して、食後は子ども達が、思い切り遊べるスペースを作った事で、「子ども達が、食後の遊びを楽しみにしている」との参加者からのお声も頂きました。

お母さんお父さんも、子ども達も、ほっと息抜きの出来る居場所づくりが出来たらと願います。

2 検温・手洗い、会場の換気、完全予約制として、会場定員の半分の人数となる様にして密を防ぎ、また予約制とする事で、食品ロスが出ないよう心がけています。

三輪晴美 おいでん家 愛知県

1 食事時間を30分ごとに区切り交代制。壁に向かって食事。密回避の食事の時の人数制限。メニューの工夫でスタッフの人数制限。など。

2 思春期の子どもの行動には、やんわりと声をかけて見守る。

木村豊 地域に子どもの居場所をグループ・わいわい 徳島県

1 地域の神社の集会所での開催が3年目になります。

コロナ禍でのこども食堂開催には検温・消毒に気を付け、特に「密」を避けたいと思っていますが、狭い集会場では難しいです。徳島市内は公共建物内での飲食が禁じられていて集会場でも使えるのは有り難いとは思っていて、その場で食べることでより弁当にして持ち帰ることも進めてはいますが、「人と繋がりたい」「話をしたい」と思っている方が多く、持ち帰る人が非常に少ないのです。そこにスタッフのジレンマも発生します。子ども達は「密」を喜んでいます。開催時間を短くすることで乗り越えていっている状態です。

堀江祐加 エシカル食堂 कोरोおばちゃん

会 徳島県

1 年に3回徳島県名西郡石井町で「エシカルこども食堂」を開催しているコロナおばちゃんの手で、コロナ禍でこども食堂を開催することができませんでした。

それでも何かをしたいと地域の小学校でのエシカル授業のお手伝いをしました。

1回目は6年生を対象に規格外の野菜やお米を使って、クリームシチュー、炊き込みご飯の調理実習を子ども達としました。

エシカル授業で食品ロスや環境、お買い物、ごみ問題等々、子ども達と一緒に勉強できて楽しかったです。

また、第2回目には5年生の皆さんと、ごみ削減、人への思いやり、食品ロスについて学び、子ども達の要望で小学校内のみならず石井町役場にもフードドライブの箱を設置することができ、フードバンクを通して、様々な人に役立ててもらうことができました。

今年1回の取組ではなく、今後も継続して子ども達と学習していただける取り組みにできたことが嬉しく、また、子ども達が親のみならず先生や地域の人を巻き込んでいく力を見せてくれたことが頼もしく思われました。

門間尚子 せんだいこども食堂 宮城県

1 つないだ手をはなさない

2月を最後にこども食堂の活動ができなくなりしました。同時に、こども食堂に来ていたひとり親の

お母さんたちから「これからどうなるの?」「仕事が減ってしまった。このままでは解雇になるかもしれない」「学校が休みになったらこどもたちをみてる人がいない」と不安の声が届きました。その声は、日に日に深刻さを増し、一週間と経たないうちに悲鳴となりました。「解雇された。来月からどうやって暮らして行ったらいいのだろう」「卒業・入学を前に収入がなくなる」「食費がどんどんかかってきた」。

そこで、3月から毎週フードパントリーを開始しましたが、コロナの感染拡大とフードパントリーの会場へ向かう交通費やガソリン代の捻出が厳しいとお母さんたちの声もあり、すぐに宅配に切り替えました。現在、県内のひとり親50世帯へ食糧と日用品を毎月届けています。宅配は映画「魔女の宅急便」を真似て「魔女宅」と呼んでいます。魔女宅には、食糧や日用品だけではなく、こどもたちへのおもちゃや寄付者・応援者からのメッセージも入れています。魔女宅事業と並行して、こどもたちとボランティア・寄付者の文通事業「白やぎ」も立ち上げました。

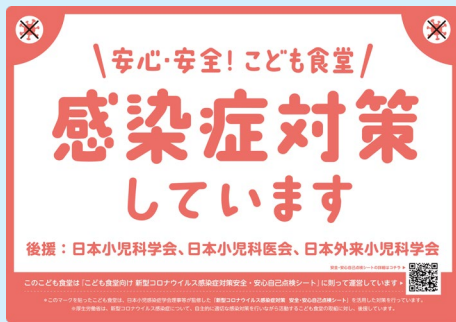
こどもたちと会うことやこどもたちを支えることを愉しみにしてきたボランティアや寄付者の大勢の方たちが、毎回魔女宅と白やぎに関わってくれています。私たちの合言葉は、「つないだ手をはなさない」。こども食堂でつないできた手をどんな状況になってもはなさないことで、こどもたちに寄り添い・応援し続けます。

「届いた手紙や食糧を見ていたら、生きていてい

いんだよ、と言われた気がして、うれしくて涙がとまらなかった」「ひとりじゃないんだと、気がつきました」そんなお返事が届いています。そしてこどもたちからも、「はやくこどもしよくどうのおみそしるがのみたいです」と、かわいらしい絵と覚えてたの字でお返事が届いています。大変な状況だからこそ、大切なことがたくさん見えてきています。これまで掲げてきた「ひとりじゃないよ」というメッセージを、さらにはつきりとした手紙を携えてこどもたちと親ごさんたちへ届けていきます。

2 ハラスメント対策については、ただいま対応マニュアルを作成しています。マニュアルがあることで、活動者の安心感があつたり、万が一の際には速やかに対応ができたり、また、地域や社会からの信頼性も増すのではないかと考えています。





むすびえの 新型コロナウイルス 対策コンテンツ

こども食堂向け 新型コロナウイルス感染症対策 安全・安心自己点検シート

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/12/kansensyo_checkseat.pdf

【制作】むすびえ

【制作協力】藤岡雅司(小児科医・ふじおか小児科院長・富田林医師会理事・日本外来小児科学会副会長・日本小児科医会理事など)
森内浩幸(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科小児科学教授・日本小児科学会理事・日本小児保健協会理事・日本小児感染症学会理事・日本ウイルス学会理事・日本臨床ウイルス学会幹事など)

【後援】日本小児科学会、日本小児科医会、日本外来小児科学会

こども食堂感染症対策宣言マーク

※上記「自己点検シート」の全項目にチェックいただいたこども食堂がご活用いただけます。

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/12/kansensyo_sticker_fix.pdf

【制作・制作協力】同上 【後援】厚生労働省、日本小児科学会、日本小児科医会、日本外来小児科学会

こうすればできる! こども食堂感染症対策事例集

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/12/kansensyo_book.pdf

【制作】むすびえ 【制作協力】藤岡雅司

映像番組「これならできる withコロナ時代のこども食堂 ～小児科医(日本小児学会予防接種・感染症対策委員会委員)に聞く感染症対策～」

<https://musubie.org/news/2882/>

【制作】むすびえ 【制作費協力】株式会社ほぼ日

【番組紹介文】実は子ども同士による感染例は稀って知ってましたか?正しい知識でコロナ対策を行えばこども食堂の開催をおそれることはありません。現役小児科医の藤岡雅司医師が直接こども食堂に出向き、運営者の相談にのっていただきました。

【番組目次】0:00- この動画の目的

2:59- 正しいアルコール消毒はたっぷり使うのがポイント!

3:56- マスクは何歳から必要?

6:18- 食事の際の3密対策はどうすれば良い?

14:04- 換気の正しい方法って?

16:00- 差別・誹謗中傷とどう向き合うのか

22:32- 安全・安心自己点検シートとステッカーを作成しました



過去のこども食堂サミットの様子は、 こども食堂ネットワークのウェブサイトで見られます。

こども食堂ネットワークのウェブサイト
上部にある3つのタブのうち、「こども食
堂を作りたい人」を選択してください。中
段に「③こども食堂サミット アーカイブ」
があり、過去のこども食堂サミットの映
像やパンフレットが格納されています。
ぜひご覧いただければ幸いです。



こども食堂ネットワークについて

こども食堂ネットワークは、
地域でこども食堂を運営している方たちが交流をし、
こども食堂の輪を広げるための連絡会です。
ウェブサイトで各こども食堂さんの情報を掲載したり、
メーリングリストで情報や食材などを相互提供しています。
参加費などはありません。
ご参加を希望される方は、事務局までお問合せください。

こども食堂ネットワーク事務局

電話 ●03-5365-2296(平日10時～18時)

メール ●info@kodomoshokudou-network.com

ウェブサイト ●<http://kodomoshokudou-network.com/>

